

こんな幼稚園に

子どもをやりたい



一、先生について

「お宅ではどんな幼稚園に入園なさりたいですか」とのおたずねを受けた時、「まだまだ先の事で……」と申しました。けれども、よく考えてみると、いつの間にか頭の中にぼんやりとした「うちの子の幼稚園」が出来つつあることに気がつきました。きっと、毎日子どもと生活を共にし、その成長をみているうちに、また近所のお子さんたちを通して幼稚園の話を聞いているうちに出来上がったものでしょう。多くのお母さんたちの頭の中にも、それぞれ「うちの子の幼稚園」があると思いますが、その一つとして私のそれをお話したいと思います。

まだまだ赤ちゃん気の抜けない、そのくせ親のいいところも悪いところも拡大して持っているようなこの頃の子どもを、受け入れて下さる先生のことが一番心配です。何はともあれ、この子を心暖かく受け入れていただきたいというのが親のねがいでしょう。それ故、「うちの子の幼稚園」の先生は、どんな子どもでも、受け入れて下さるかたであることが一番大きなことだと思います。

先生がたが人間として、他人を受け入れ

ることの出来る人であり、なお、子どもの心を忘れていないということです。人間の立派な人でも、子どもの心を見ることへのたな人がありますが、「うちの子の幼稚園」の先生は、子どもの心に共感を持ち、子ども好きでなければなりません。勿論その上に、音楽リズムがお得意で、絵のセンスがあれば申し分ありません。しかし、このような技術は、特にひどくへたでさえなければ、人間的によい先生であることの方がずっと大切なことと思います。よい先生に暖かく受け入れられた子どもは、子どもの持っているものを、全部出して伸びてゆくことが出来ると思われるからです。その反対に幼稚園に受け入れられず、不安定な子どもは、幼児期の大切な二、三年を精いっぱい伸びることが出来ないでしょう。お母さんやお姉さんの持っている暖かさを先生も持っているほしい。けれど、お母さんの持っていない客観性、先の見通しを少し持っていて、子どもを通してお母さんのよき

協力者、よき助言者であってほしいと思います。

二、幼稚園の方針について

幼稚園には、それぞれいろいろの方針があると思います。例えば、知能の高い子どもを教育するとか、特別な才能を伸ばすとか、社会性を伸ばすとか、いろいろあるでしょう。そしてお母さんの方にもいろいろな希望を持った人があり、それを選ぶのは、個人の自由というものだと思います。しかし、共通して言えることは、幼稚園の方針として外に向かって特に大きくうったえることよりも、実際の保育が、いかにうまくいっているかということが大切なことなのではないかと思われます。それ故第一番に、先生について、たくさんの注文をつけました。そして、第二には、幼稚園の方針・機能が、先生を、よく生かすものであってほしいとねがいます。よき人格を持った先生を生きいきとして働かせ得る幼

稚園であり、組織であり、園長さんであってほしいと思います。

三、距離について

勿論なるべく近いところにある幼稚園をのぞみます。遠いところへ通うには、体力が無理ですし、地域社会から浮き上つてまいりますので。

四、環境・設備その他について

これも、勿論よい方がよいにきまっています。しかし、これみよがしの、表面的な美しさや、たくさんの設備は必要とは思われません。むしろ、あまり表面的な美しさや設備を誇っているところは、何かそれを運営する人の心がおしはかれるような気がします。子どもが自分の家のような親しさを感じる落ち着きのある環境と、本当に、子どもを思う心から出たゆきとどいた設備のあるところを頭にえています。ここでも、やはり、ただ物理的な環境や設備と

うだけでなく、それをととのえる先生がたに期待しているといえるかもしれせん。

以上、いろいろと申しましたが、結局、よき園長さんと先生がたのいらっしやる、なるべく近くの幼稚園に入れていただきたいという平凡な親のねがいに要約されると思います。

では、実際にどうやってその幼稚園をきめたらよいでしょうか。他の人に尋ねるのもよいでしょうが、私は、実際の保育を朝から半日見せていただくつもりでおりません。短時間では本当のことは分かりませんので、なるべく全部見せていただけたら、幼稚園についてはよくしらない私たち母親も理解出来、よき先生がたのいらっしやる幼稚園を見きわめることができるのではなにかと思います。

(三才児の母)